第42回卒業証書授与式　校長式辞

雪の日があったものの、比較的穏やかだった冬も終わり、あたたかな日差しを感じられるようになりました。合瀬川沿いの桜の芽も少しずつふくらみ、開花が待ち遠しく思われるこの良き日に、ご来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、第四十二回卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員一同、大きな喜びであり、高い席からではありますが、ご臨席いただきました皆様に心から厚くお礼申し上げます。とりわけ、保護者の皆様には、深い愛情をもって育ててこられたお子様の、立派に成長した姿を前にして、さぞかしお喜びのことと拝察申し上げます。お子様の晴れのご卒業を心よりお祝い申し上げますとともに、本校の教育に対する三年間のご支援とご協力に深く御礼申し上げます。

さて、第四十二回生、二六三名の皆さん、卒業おめでとうございます。本校での3年間の青春の日々は、皆さんの心にどのように刻まれているでしょうか。中学以来、4年以上に及ぶコロナとの付き合いも、ほぼ終息しそうです。多感な青年期のかなりの時間、マスクを着けたままの感染予防の毎日で、不自由を強いられたこともありましたが、卒業を迎える今日は一層晴れやかな気持ちでいるのではないでしょうか。

三密回避、黙食、不要不急の外出自粛、新しい言葉が感染対策として国や県から次々と示される中、牧南では、1年次のキャンプを除き、ほとんどの行事を中止することなく工夫して実施しました。生徒の皆さんも感染防止対策を徹底しつつ、楽しむべきところは楽しみ、校内・校外の行事をクラスメイトとともに満喫できたと思います。確かに、皆さんは「コロナ世代」と呼ばれるかもしれませんが、コロナ禍の間には、未知の脅威に対して対策し少しずつ克服していく経験を日々重ねてきましたし、部活動でも制約が多い中で、運動部・文化部ともに練習の成果を最大限発揮してくれました。何より辛い我慢をしている者同士、互いに支えあう優しい思いやり、本校の校訓にある「恕」の心を自然に示せるようになっていると思います。得難い3年間の経験を経て、粘り強く、たくましく、また、優しさを備えた、一人の人間として大きく成長できたはずです。ぜひ、牧南での生活から得たものに自信をもち、各自の目指す未来に歩を進めてほしいと願っ

ています。

さて、ここからは皆さんの未来に向けて、はなむけの意味も込め、三つのアドバイスを贈りたいと思います。

一つ目は、何をするときにも必ず複数の選択できる余地を持っておこう、選択肢の中から自らの決断によって一つを選ぼう、ということです。自分の信じる道はただ一つと突き進むのはかっこいいようでいて、本当は仕方なくその道しかなかったということはありませんか。そこまで追い込まれる手前で先を読んで、いくつかのオプションを持っておくのです。選ぶ道が正解かどうかわからなくても、思い切って一つを選ぶ。それが皆さんの強さとなります。人生はまさに選択の連続です。そして、私の経験上、その選択のうちのいくつかは引き返したい失敗選択でした。しかし、失敗も含めて選択の連続が今の私を作っています。ですから、選択がプラスかマイナスか、今の時点で判断はできません。皆さんのこれから長い人生はいつだって軌道修正が可能です。思い切って選んだ道を進みましょう。仮につまずいたとしても、諦めずに少しずつプラスにしていけばいいのです。

二つ目は、「自分はできる、大丈夫だと自信を持って進もう」ということです。最近、スポーツの世界で日本選手の世界的な活躍が続いています。少し前なら、絶対無理、夢のまた夢と思われた、例えば大谷翔平選手の成し遂げたような快挙が、野球だけでなく多くのスポーツで実現しているのはなぜだろうと思いませんか。練習方法の進化、プロ化や海外進出の活発化など環境の変化も大きいでしょう。しかし、私は壁を破るブレイクスルーの連鎖・波が、今起きていると感じます。とりわけメンタル面で、あの人にできることが自分にできないはずがないという強い信念が、個々の選手の才能を磨く並々ならぬ努力を支え、不可能と思われたことを可能にしているのではないでしょうか。プロスポーツという特別な世界の中だけではありません。どこでも、牧南でも、ブレイクスルーの波は起きます。一人一人が自分の限界を決めずに何かに本気で打ち込んでいる、そういう人が集まれば。それぞれ目標が違ってもお互いの努力をリスペクトし合える、切磋琢磨が行われれば。牧南はそういう学び舎であってほしいと願っていますし、現実に

それが実を結びつつあります。この牧南を卒業した皆さん一人一人が、お互いの頑張りに刺激を受けながら、「自分もできる、大丈夫だ」と自信を持って進んでくれれば、現代の閉塞した状況に風穴を開ける、ブレイクスルーの矢も放てるのではないか、そう期待しています。

さあ、四十二回生の皆さん、いよいよ旅立ちのときが来ました。三つ目のアドバイスとして皆さんに「セレンディピティ」という言葉を贈ります。ペルシャの昔話「セレンディップの三人の王子たち」に、この言葉は由来します。王宮の中で学問を修めた王子が、見知らぬ世界に旅立ち、道々偶然出会った出来事にインスパイアされて、自分の持つ知識に肉付けを加え見聞を深めていくストーリーは、高等学校の教育課程を修了し世に出る皆さんに重ね合わせることが可能です。詳細は原作に譲るとして、今では、「素敵な偶然に出会うこと、予想外の新しいものを発見すること」という意味で使われる、このセレンディピティの核心は、偶然を見過ごさず、積極的に機会を生かす、「心の構え」です。住み慣れた地元から新しい環境に出て、人との新しい交流が始まる今こそ、自分と同じような馴染みの人同士で固まらない、自分の人生を狭めない、予想外の出会いを幸せな偶然として受け入れ、未知の世界に自分を賭けてみることを、皆さんにはお勧めします。ふとした偶然をきっかけに、幸運をつかみ取ることがきっとあるはずです。セレンディピティをつかむ、意外なところで意外に人生が開けていくかもしれない。ぜひそれを頭の片隅に置いていただければと思います。

最後に保護者の皆様にもお話させていただきます。お子様のご卒業おめでとうございます。義務教育から高校卒業まで、お子様に愛情を注がれ献身的にお世話をされたことが、ここに実を結ばれたことを、改めてお祝い申し上げます。さておそらく、保護者の皆様はお子様に対し、高校卒業を機にどのように接したらよいのか、戸惑いを感じていらっしゃる方があるのではないでしょうか。そうした方にも先ほどの「セレンディピティ」という言葉をお贈りしたいと思います。お子様の可能性はいつまでも保護者の手の中に収まるサイズではありません。一抹の不安はおありかもしれませんが、お子様を大きく羽ばたかせるためにも、慣れた環境に安住するより、思い切って見聞を広め、可能性

に自らを賭けてみる方向に、お子様の背中を押していただけるよう、私からもぜひにお願いします。

卒業生の皆さん。皆さんは、本校の歴史と伝統の中に刻まれた大切な卒業生です。うれしいとき、苦しいとき、困ったとき、いつでも学校へ帰ってきてください。牧南は今も、これからもずっと、皆さんの母校であり、心のふるさとであり続けることを約束します。

卒業生諸君の今後の健康と発展を念ずるとともに、皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして式辞とします。

令和六年三月一日　　愛知県立小牧南高等学校長　　瀬尾　学